

大学体育授業におけるゲーリックフットボール  
についてのアンケート調査①  
— 2021 年度秋学期「健康体カづくり」—

Questionnaire survey of Gaelic Football in university  
physical education class (I) :  
The fall term of 2021

高千穂大学体育系列

廣瀬文彦

Fumihiko Hirose

青葉貴明

Takaaki Aoba

椿原徹也

Tetsuya Tsubakihara

浅井泰詞

Taishi Asai

新井健之

Takeyuki Arai

白鷗大学教育学部

齊藤武利\*

Taketoshi Saito

---

\* 齊藤武利氏（白鷗大学）は高千穂学会会員ではないが、本研究ならびに本稿の執筆に際して共同で行ったために共同執筆者として掲載した。

## 1. はじめに

本稿の対象となった授業である教養科目「健康体力づくり」は、対面授業と遠隔授業で行われた。それは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって対面授業に参加希望の学生を募り、事情により対面授業に参加出来ない学生は遠隔授業を受講するという方法となったためであった。

その対面授業では「ゲーリックフットボールの派生的ボールゲーム」を行った<sup>1)</sup> (廣瀬ほか 2022)。

ゲーリックフットボールは「19世紀半ばにアイルランドを襲った大飢饉により、各地で行われていた民族フットボールは衰退した。これに代わる形で、英国からの近代フットボール(1860年ごろからラグビー、1870年ごろからサッカー)がアイルランドで行われるようになる。…(中略)…このような英国スポーツの侵攻に危機感を覚えた Michael Cusack は、自国のスポーツを発展させるために GAA (Gaelic Athletic Association) を 1884 年に設立する。GAA はハーリングやゲーリックフットボール、主要なアスレチック種目の公式ルールを制定し、その奨励に努めた。」<sup>2)</sup> (榎本 2011)、「アイルランド独自の規則を作るための GAA の試みは最初は難航した。…(中略)…しかし、ゲールのフットボールがラグビーに挑戦できたのには、フィールド内と同様にフィールド外のことも関わっていた。GAA はカトリックのアイルランド文化の擁護者を名乗っただけでなく、ラグビーを外国のスポーツとした。」<sup>3)</sup> (Tony 2015) とその歴史を紹介されている。

派生的ボールゲームは、鈴木 (2012) が「原型となる運動種目が先に存在していて、そのルールに何らかの改変を加えることで新しく作られたという点において、原型からの派生的ボールゲームとして理解される。」<sup>4)</sup> としている。

一方、遠隔授業はゲーリックフットボールを含む「フットボール」をテーマとしてオンデマンド形式で開講した。その内容は、ゲーリックフットボールを含むフットボールの種類や歴史とアイルランドラグビーの紹介、対面授業で行った「ゲーリックフットボールの派生的ボールゲーム」の紹介などであった。

ところで、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の際にアイルランドは「独立戦争、宗教の対立、その後も残るテロなど複雑な歴史を経ても「ひとつのチーム」として活動を続ける」<sup>5)</sup>と紹介された。さらに、その大会では Scrum Unison が「2019 年、『国歌を歌っておもてなし』する活動を始めました。」<sup>6)</sup>とラグビーを通じた文化交流も話題となった。

下道 (2020) は「トム＝ブラウンの学校生活」(Thomas Hughes 1952) からの引用として「第 6 章『試合終わって』の中で、生徒達が集団で歌唱する場面が詳細に描かれている。」を紹介し、さらに、19 世紀のイギリスのパブリック・スクールのスクールソングについて「スポーツに関してハーロー校はフットボールで、イートン校はボートで有名であるが、どちらも音楽教育に熱心で有名な歌を持っている。」と「スポーツの試合の為に作られた歌の考察」<sup>7)</sup>をしている。

このようにラグビーのみならずスポーツは、その国の歴史や文化と密接に関係しており、大学で開講される教養科目の体育は、単にそのスポーツを楽しむだけでなく、それに付随する事柄についても学ぶべきである。

そこで本稿は、大学体育授業受講者に対してアイルランドの国技であるゲーリックフットボールについてのアンケート調査を行い、その結果を報告すると共に「今後の授業内容の改善」に役立てることを目的とした。

そして、本稿が対象とした教養科目「健康体力づくり」のシラバスにある授業の到達目標は「健康的で充実した生涯を送るために、体力の維持・増進方法を教養として身につけることを目標とする。」<sup>8)</sup>となっている。そのため、ボールゲームを行うことによって授業の到達目標が達成出来るかも調査の対象とした。

## 2. 方法

### 2.1 対象者

高千穂大学で 2021 年度秋学期火曜 1 限および 2 限に開講された教養科目「健康体力づくり」に参加した履修者 81 名を対象とした。授業の担当教員は

本稿の著者 2 名で、その 3 クラスの人数の内訳は火曜 2 限（青葉クラス）27 名、火曜 1 限（廣瀬クラス）26 名、火曜 2 限（廣瀬クラス）28 名であった。

## 2.2 対面授業

対面授業はゲーリックフットボールの派生的ボールゲームを 4 回（第 7 回授業～第 10 回授業）行った<sup>1)</sup>（廣瀬ほか 2022）。

原型のボールゲームは、「ゲーリックフットボール」、「ラグビー」、「バスケットボール（以下バスケットと略す）」、「サッカー」を選んだ。（表 1）

表 1 授業内容

授業回 日にち	ルール設定	ボール	タグ	プレーヤー	コート	ゲーム タイム
第 7 回 11/9	ラグビールール	バレー	フラッグ	3 人対 3 人	半面	3 分 ハーフ
第 8 回 11/16	ラグビールール バスケットルール	バレー	男子フラッグ 女子タグ	3 人対 3 人 3 人対 3 人	半面	3 分 ハーフ
第 9 回 11/23	バスケットルール サッカールール	レッスン バレー	男子フラッグ 女子タグ	3 人対 3 人 5 人対 5 人	半面 全面	3 分 ハーフ
第 10 回 11/30	ラグビールール バスケットルール サッカールール	バレー バレー レッスン バレー	男子フラッグ 女子タグ	3 人対 3 人 3 人対 3 人 5 人対 5 人	半面 半面 全面	5 分 ハーフ



図 1 バレーボール



図 2 レッスンバレーボール



図3 フラッグ



図4 タグ

## 2.3 遠隔授業

遠隔授業は、Google classroom を利用したオンデマンド形式で2回（第14回授業と第15回授業）行った。授業教材は、初学者の興味を引くためにわかりやすく、さらに出典にアクセス出来る内容を選んだ。その理由から、検索エンジン（Google）を用いてキーワードの上位にヒットした Web サイトを利用した。

その利用の際は「改正著作権法第35条」を念頭に「受講者以外には閲覧させない」、「授業の過程における利用」で「必要と認められる限度」であること、「著作権者の利益を不当に害しないこと」に留意した。

以下にその授業教材の内容を記す。

### 2.3.1 第14回授業

#### 1. フットボールの種類

アソシエーションフットボール（サッカー）、ラグビーユニオン、ラグビーリーグ、ゲーリックフットボール、アメリカンフットボール、オーストラリアンフットボール等がある。

### 【出典】

- ・フリー百科事典ウィキペディア日本語版 (2021) フットボール 2022 年 3 月 25 日 (金) 3:54、URL:<https://ja.wikipedia.org/wiki/フットボール>

## 2. ラグビーの起源

「サッカーの試合中に、1 人の選手がボールを持って走り出した事がラグビーの起源である。」は正確ではない。

### 【出典】

- ・YouTube (2018) ある少年の反則が伝説になった！ラグビーの起源【ラグビーワールドカップ】 2022 年 3 月 25 日 (金) 3:59、  
URL:<https://www.youtube.com/watch?v=WrgvXMu9RmM>

## 3. フットボールの歴史

中世のイギリスでは、祭りなどでモブフットボールが行われていた。その後、近代にパブリックスクールが中心となりルールが制定された。その際にラグビーとサッカーに分かれた。

### 【出典】

- ・フリー百科事典ウィキペディア日本語版 (2021) フットボール 2022 年 3 月 25 日 (金) 3:54、URL: <https://ja.wikipedia.org/wiki/フットボール>

## 4. ゲーリックフットボールの紹介

アイルランドで 16 世紀から 17 世紀に発祥した団体競技で、フットボールの原型に一番近い競技であると言われている。

### 【出典】

- ・フリー百科事典ウィキペディア日本語版 (2021) ゲーリックフットボール 2022 年 3 月 25 日 (金) 4:05、URL: <https://ja.wikipedia.org/wiki/ゲーリックフットボール>

## 5. アイルランドラグビーの紹介

アイルランド代表はラグビーワールドカップ 2019 日本大会で日本代表と対戦し、12 対 19 で敗戦した。そのアイルランド代表は「ふたつの国」にまたがるチームです。ふたつの国にまたがるため、国家ではなく 1990 年代に作られた「アイルランズ・コール」を歌っています。

ゲーリックフットボール協会の本拠地であるクロークパークは、独立戦争における悲劇の舞台でもあります。1920年11月21日の「血の日曜日事件」です。英国軍がゲーリックフットボールの試合中に発砲し、14人が犠牲になりました。そのクロークパークで2007年2月に英国文化を象徴するラグビーの試合が初めて開催され、その試合前に英国国歌が歌われましたが、アイルランドの観衆はとても静かに聞いていました。

【出典】

- ・YouTube (2019) ショートハイライト/日本代表 v アイルランド代表【ラグビーワールドカップ】 2022年3月25日(金) 4:09  
URL: <https://www.youtube.com/watch?v=1pc4eHtqc8o>
- ・NHK sports (2019) アイルランドのラグビー 対立超える“ONE TEAM” 前編 2022年3月25日(金) 4:12  
URL: <https://www3.nhk.or.jp/sports/story/3665/>
- ・読売新聞オンライン (2019) アイルランド<中> 悲劇の歴史にノーサイド 2022年3月25日(金) 4:20  
URL: <https://www.yomiuri.co.jp/rugbyworldcup/20190424-OYT1T50195/>
- ・YouTube (2007) Ireland's call Anthems at Croke Park Flannery's tears 2022年3月25日(金) 4:35  
URL: [https://www.youtube.com/watch?v=\\_6\\_UsZtHiXU](https://www.youtube.com/watch?v=_6_UsZtHiXU)
- ・NHK sports (2019) アイルランドのラグビー 対立超える“ONE TEAM” 後編 2022年3月25日(金) 4:36  
URL: <https://www3.nhk.or.jp/sports/story/3670/>

## 2.3.2 第15回授業

### 1. 「ゲーリックフットボール」の紹介

【出典】

- ・YouTube (2018) ゲーリックフットボール | 手を使えるサッカーが面白そう! 【マイナースポーツ】 2022年3月27日(日) 19:32  
URL: <https://www.youtube.com/watch?v=TZv8OvxQk5g>

## 2. 「対面授業のフットボール」のルール説明と映像の紹介

### 2.4 アンケート調査

対象者は Google classroom を利用した遠隔授業の中でアンケート調査に協力した。アンケート提示日は第 15 回授業日（2022 年 1 月 11 日 1 限または 2 限）で、回答期限は 6 日後（2022 年 1 月 17 日 18 時）であった。

アンケートの回答は、授業課題（出席と成績評価の対象）の後に行い、協力は任意とした。

アンケートの初めに以下のような記載をして同意を求め、個人情報の扱いも配慮した。

「次のアンケートの回答内容は担当教員（青葉又は廣瀬）の研究データのみで使います。回答の有無によって成績等で有利不利になることはありません。5 分程度、協力していただくと助かります。よろしくお願いします。」

上記について「内容について同意した。」「内容について同意できない。」「その他」の選択肢を設けて回答してもらい、回答者全員の同意を得た。

アンケートの質問項目は性別とゲーリックフットボールについての択一式と自由記述式の質問であった。

択一式と自由記述式の質問を以下に示す。

【問 1】 あなたの性別を教えてください。

【問 2】 「ゲーリックフットボール」について「面白そうだ」と思いますか。

【問 3】 【問 2】 で答えた理由について教えてください。

【問 4】 「対面授業のフットボール」について「健康づくりに良い」と思いますか。

【問 5】 「対面授業のフットボール」について「やってみたい」と思いますか。

【問 6】 【問 5】 で答えた理由について教えてください。

択一式の質問の選択肢は、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」「その他」とした。

なお、自由記述式の質問（【問3】および【問6】）には次の内容の文を加えた。

「回答は「…は（が）、…であるので面白そうだと思う。」「…は（が）、…であるので面白そうだと思う（つまらないと思う）。」と答えてください。字数の制限はありません。

## 2.5 分析方法

分析対象はアンケート調査に協力の同意をした73名（男性44名、女性28名、性別回答なし1名）とした。

択一式の回答は人数を集計し、自由記述式は「どちらとも言えない」と「そうは思わない」の回答を全文記載し、「非常にそう思う」と「そう思う」の回答をテキストマイニングで抽出語リスト表と共起ネットワーク図を作成し、計量テキスト分析を行った。これは、樋口（2015）が「人々の考えの全体的傾向を捉える」際に「選択肢型の質問項目を使った量的分析の結果と、自由回答データの分析結果を組み合わせること」<sup>8)</sup>が有効であるとの考えによった。

計量テキスト分析とは樋口（2020）が「『テキストマイニング』とよばれる比較的新しい技術を活用しつつ、伝統的な内容分析（content analysis）の考え方を実践に活かす点にある。」<sup>9)</sup>としている。そのテキストマイニングにはKH Coder（Ver. 3, Beta, 04a）を使用した。さらに町田（2019）はテキストマイニングの活用について「分析結果の公表の際にはどのような処理を行ったかを詳細に記述することが求められると考える。」<sup>10)</sup>と述べている。そこで、本稿で行ったテキストデータの処理方法を以下に示す。

### 2.5.1 テキストデータの処理方法

分析に採用した文は、文意を変えないように留意した上で単語表現の統一および文表現の変更を行った。その理由は、本稿の目的である「今後の授業内容の改善」に主眼を置き、同じ内容でも回答者によって表現が異なっている場合にそれを統一したほうが目的に沿うと考えたためである。

文を採用する際は、原沢（2012）が「日本語文の多くはこのような『主題－解説』という構造であり、学校文法で教えられる『主語－述語』の関係ではありません。」として、その主題は「『～は』で提示されていると考える」<sup>11)</sup>を参考にして、共通している主題を除外して解説部分のみを採用した。共通している主題は「ゲーリックフットボールは」（【問3】）と「対面授業のフットボールは」（【問6】）として、その後に回答の解説部分を続けて自然な日本語と判断した文を採用した。具体的な例として「ラグビーが好きなので、ラグビーと似ていて面白そうだなと思った。」の前半部分を削除して、（ゲーリックフットボールは）「ラグビーと似ていて面白そうだなと思った。」のみを採用した。

単語表現の統一は「バスケットボール」を「バスケ」、「手足」を「手と足」、「脚」を「足」、「融合された・混ぜた・合わさった」を「合わせた」、「男子・男の子」を「男性」、「女子・女の子」を「女性」、「できる」を「出来る」、「もつ」を「持つ」、「ける・キック」を「蹴る」とした。

文表現の変更は、明らかに不必要な単語は削除した。具体的な例として「サッカーが好きでサッカーに似ているところが好きです。」は「サッカーに似ているところが好きです。」とした。さらに、町田（2019）がLindlof, T. R. & Taylor, B. C. (2011)からの引用として述べている「インポートの前に「思う」を除外するか残すかの判断をする必要がある。」<sup>10)</sup>を参考にして、テキストデータの前処理（語の取捨選択）で「使用しない語」として「思う」を指定した。さらに、「思う」と「考える」の違いについて「『思う』は『感情的・一時的な思考』、『考える』は『論理的・継続的な思考』」<sup>12)</sup>（渡辺2021）より「考える」も同様とした。これは樋口（2018）も「一般的すぎる語の問題」の解決として「『思う』『考える』を除外すると密集がほどけて見やすく」<sup>13)</sup>なるとしている。

さらにテキストデータの前処理（語の取捨選択）で抽出された「複合語」はいずれも出現頻度が低かったため「強制抽出語」の指定としなかった。

### 3. 結果

#### 3.1 アンケート結果

##### 3.1.1. 「ゲーリックフットボール」について「面白そうだ」と思いますか。

択一式の回答結果を表で示した。(表 2)

択一式で「非常にそう思う」と「そう思う」と回答があった理由の自由記述式の回答結果の分析に採用した文は男性 32 文、女性 23 文であり、男女別の抽出語リストを表で示し、共起ネットワークを図で示した。(表 3・表 4・図 5・図 6)

さらに、「どちらとも言えない」と「そう思わない」と答えた理由の回答を表に示した。(表 5・表 6)

「複合語の検出」で現れた「ゲーリックフットボール」を「強制抽出する語」に指定した。

表 2 「ゲーリックフットボール」について「面白そうだ」と思いますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	合計
男性	7 (10)	25 (34)	8 (11)	4 (5)	0 (0)	44 ( 60)
女性	8 (11)	15 (21)	3 ( 4)	2 (3)	0 (0)	28 ( 38)
回答なし	0 ( 0)	0 ( 0)	1 ( 1)	0 (0)	0 (0)	1 ( 1)
合計	15 (21)	40 (55)	12 (16)	6 (8)	0 (0)	73 (100)

数値は人数（割合）で表記した。

「その他」の回答は無かったため省略した。

「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、男性で 73%（44 名中 32 名）、女性で 82%（28 人中 23 名）と好意的な評価であった。

表3 抽出語リスト (男性「非常にそう思う」「そう思う」)

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
サッカー	21	ボール	7	バスケ	3
面白い	21	ルール	7	感じ	3
スポーツ	13	足	7	競技	3
手	12	似る	5	好き	3
ラグビー	10	ゴール	4	人	3
使う	9	使える	4	難しい	3

数値は出現頻度で表記した。

出現頻度3以上の18語を示した。

「出現数による語の取捨選択」で最小出現数を2とし、「最小スパンニング・ツリーだけを描写」「強い共起関係ほど濃い線に」「グレースケールで表現」「太字」を選択した結果5グループに分かれた。

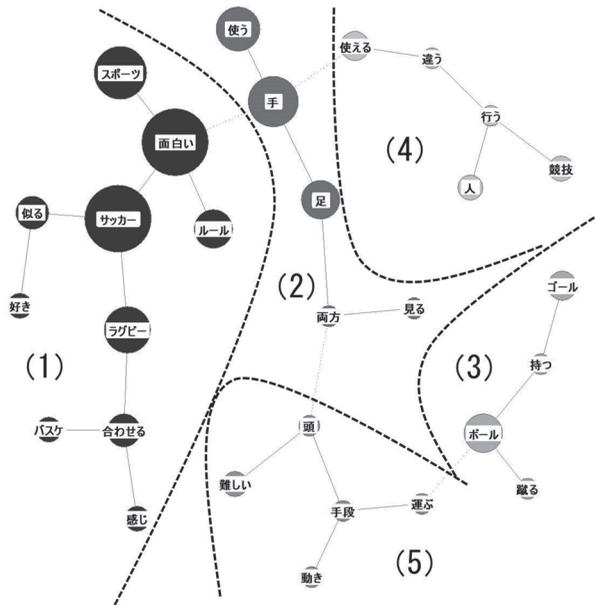


図5 共起ネットワーク図 (男性「非常にそう思う」「そう思う」)

共起が強いグループの解釈は回答内容も考慮して (1) 「サッカーに似ているところが好きで、ラグビー、バスケも合わせたようなルールのスポーツで面白い。」 (2) 「手と足の両方を使える。」 (3) 「ボールを持ってゴールに蹴る競技。」 (4) 「(手を) 使える人が行うことがほかの競技と違う。」 (5) 「(ボールを) 運ぶ手段や動きに頭を使うので難しい。」と読み取ることが出来た。

表4 抽出語リスト (女性「非常にそう思う」「そう思う」)

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
面白い	18	スポーツ	4	見る	3
サッカー	13	ボール	4	持つ	3
手	8	使う	4	蹴る	3
ルール	5	ゴール	3	歩く	3
出来る	5	バスケ	3		
足	5	ラグビー	3		

数値は出現頻度で表記した。

出現頻度3以上の16語を示した。

「出現数による語の取捨選択」で最小出現数を3とし、「最小スパニング・ツリーだけを描画」「強い共起関係ほど濃い線に」「グレースケールで表現」「太字」を選択した結果5グループに分かれた。

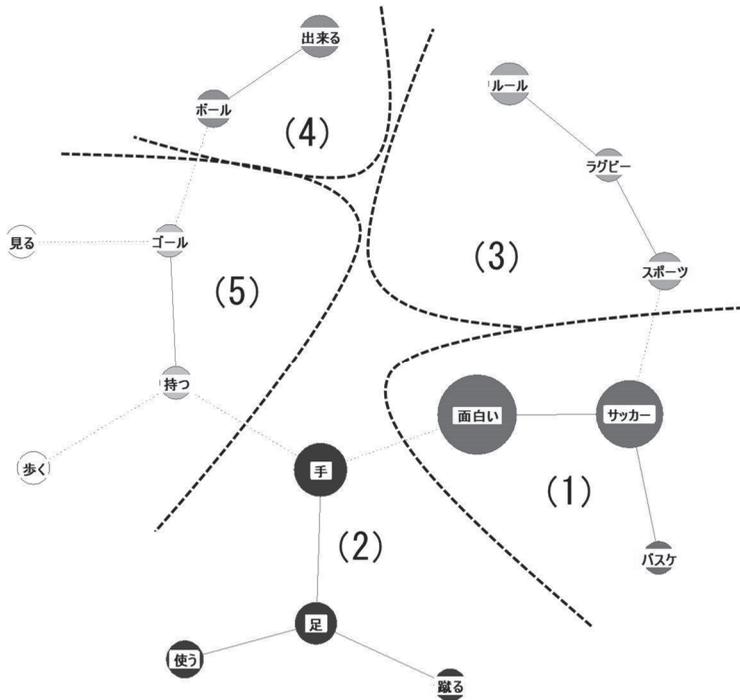


図6 共起ネットワーク図（女性「非常に思う」「そう思う」）

共起が強いグループの解釈は回答内容も考慮して(1)「サッカーにバスケットを合わせたみたいで面白い。」(2)「手に(持って)足を使って蹴る。」(3)「ラグビーのようなルールのスポーツ。」(5)「(手で)持って歩いて(ボールを)ゴールに(入れる)ように見えた。」と読み取ることが出来た。

表5 「どちらとも言えない」の自由記述式の回答

<p>男性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動がそんなに得意ではない。</li> <li>2. チームスポーツは苦手。</li> <li>3. 観るのは楽しそうであるが、やるのは疲れるし痛いのも嫌い。</li> <li>4. この競技をするよりサッカーをしたい。</li> <li>5. ゲーリックフットボールをやるのであれば普通にフットボールをやりた いし、ボールを持っていいというルールもある。</li> <li>6. ラグビーとサッカーの二つのルールを掛け合わせるの面白いと思っ たが、ルールが複雑になりそうでどちらかのスポーツに絞ってプレーし た方が良い。</li> <li>7. いろいろな競技を組み合わせたらルールが混同してしまう。</li> <li>8. どちらとも言えない。</li> </ol>
<p>女性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットボールに興味がない。</li> <li>2. スポーツに特に関心を抱かない。</li> <li>3. 興味は湧くが、やりたいかと言われると悩む。</li> </ol>
<p>回答なし</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これをやりたいかと考えたときに即決できなかった。</li> </ol>

表6 「そう思わない」の自由記述式の回答

<p>男性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体を酷使する競技だと思うので自分には向いてない。</li> <li>2. 映像を見た限りではサッカーより激しい。</li> <li>3. 選手同士がタックルなどでぶつかって大怪我が発生するかもしれない。</li> <li>4. 様々なスポーツのルールが複雑に混ざり合い、理解することが出来ない。</li> </ol>
<p>女性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足で行う競技が苦手とそれと似たスポーツである。</li> <li>2. 試合に出ているみんなの動きが素早すぎて少し怖い印象を持った。</li> </ol>

「運動やスポーツが苦手」、「疲れるし怪我が怖い」、「ルールがわかりにくい」といった意見があった。

### 3.1.2. 「対面授業のフットボール」について「健康づくりに良い」と思いますか。

択一式の回答結果を表で示した。(表 7)

表 7 「対面授業のフットボール」について「健康づくりに良い」と思いますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	合計
男性	14 (19)	27 (37)	2 (3)	1 (1)	0 (0)	44 (60)
女性	16 (22)	12 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (38)
回答なし	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
合計	30 (41)	40 (55)	2 (3)	1 (1)	0 (0)	73 (100)

数値は人数（割合）で表記した。

「その他」の回答は無かったため省略した。

「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、男性で 93%（44 名中 41 名）、女性で 100%（28 人中 28 名）と好意的な評価であった。

### 3.1.3 「対面授業のフットボール」について「やってみたい」と思いますか。

択一式の回答結果を表で示した。(表 8)

択一式で「非常にそう思う」と「そう思う」と回答があった理由の自由記述式の回答結果の分析に採用した文は男性 39 文、女性 20 文であり、男女別の抽出語リストを表で示し、共起ネットワークを図で示した。(表 9・表 10・図 7・図 8)

さらに、「どちらとも言えない」と「そう思わない」と答えた理由の回答を表に示した。(表 11・表 12)

表 8 「対面授業のフットボール」について「やってみたい」と思いますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	合計
男 性	8 (11)	30 (41)	5 (7)	1 (1)	0 (0)	44 (60)
女 性	11 (15)	9 (12)	6 (8)	2 (3)	0 (0)	28 (38)
回答なし	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
合 計	19 (26)	40 (55)	11 (15)	3 (4)	0 (0)	73 (100)

数値は人数（割合）で表記した。

「その他」の回答は無かったため省略した。

「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、男性で 86%（44 名中 38 名）、女性で 71%（28 人中 20 名）と好意的な評価であった。

表 9 抽出語リスト（男性「非常にそう思う」「そう思う」）

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
ルール	16	スポーツ	5	機会	3
出来る	9	ラグビー	5	自分	3
サッカー	7	好き	5	実際	3
運動	7	楽しい	4	蹴る	3
体	7	人	4	不足	3
バスケット	6	コミュニケーション	3	面白い	3
動かす	6				

数値は出現頻度で表記した。

出現頻度 3 以上の 19 語を示した。

「出現数による語の取捨選択」で最小出現数を 3 とし、「最小スパニング・ツリー」だけを描画。「強い共起関係ほど濃い線に」「グレースケールで表現」「太字」を選択した結果 6 グループに分かれた。

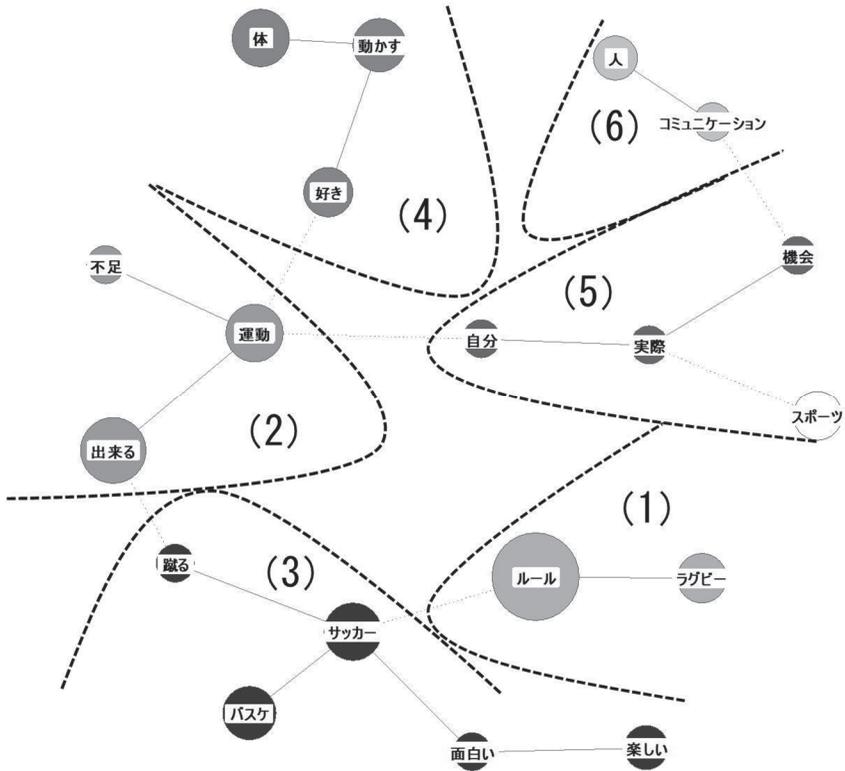


図7 共起ネットワーク図（男性「非常にそう思う」「そう思う」）

共起が強いグループの解釈は回答内容も考慮して (2) 「運動不足を（解消することが）出来る。」 (3) 「サッカールールは蹴ることが（出来る）ので面白いし楽しい。」 (4) 「体を動かすことが好き。」 (5) 「実際に自分が（運動する）機会となるスポーツ。」 (6) 「（周りの）人とコミュニケーション（を取ることが出来る。）」と読み取ることが出来た。

表 10 抽出語リスト (女性「非常にそう思う」「そう思う」)

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
ルール	12	面白い	4	競技	3
楽しい	7	サッカー	3	女性	3
体	6	チーム	3	男性	3
出来る	5	チームプレイ	3	良い	3
動かす	5	ラグビー			

数値は出現頻度で表記した。

出現頻度 3 以上の 14 語を示した。

「出現数による語の取捨選択」で最小出現数を 3 とし、「最小スパンニング・ツリーだけを描画」「強い共起関係ほど濃い線に」「グレースケールで表現」「太字」を選択した結果 6 グループに分かれた。

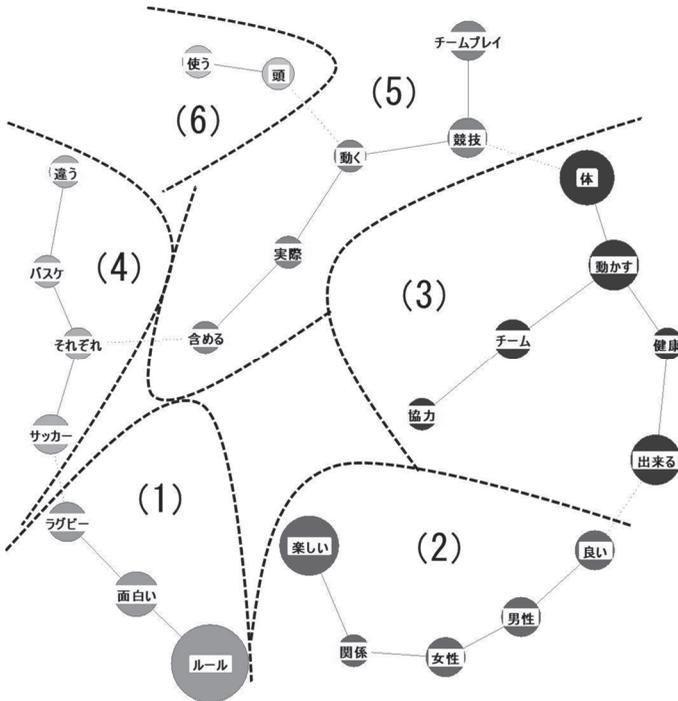


図 8 共起ネットワーク図 (女性「非常にそう思う」「そう思う」)

共起が強いグループの解釈は回答内容も考慮して (1) (4) 「ラグビー、サッカー、バスケットそれぞれ違うルールで行うことが面白かった。」 (2) 「男性女性に関係なく楽しめたことが良かった。」 (3) 「チームで協力をして体を動かすことで健康になることが出来る。」 (5) (6) 「頭を使って動くチームプレイが重要な競技。」と読み取ることが出来た。

表 11 「どちらともいえない」の自由記述式の回答

<p>男性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットボールは経験者ばかりが楽しんで、未経験者はあまりボールを触ることすら出来なかった。</li> <li>2. チームスポーツは苦手。</li> <li>3. フットボールはやったことがないので興味があるが、そこまで得意では無い。</li> <li>4. 楽しそうで体を動かすいい機会であると思うが、疲れるのが嫌で、日常生活の中で身体を動かす機会があるので観るだけで充分である。しかし、観ているとやりたくなる。</li> <li>5. ラグビールールは面白そうだと思ったが、自分は高校生の時にバスケの授業で靭帯損傷してしまいその時のトラウマで思いっきりジャンプが出来ないので観戦する分には面白いが自分でやりたくはない。</li> </ol>
<p>女性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動音痴である。</li> <li>2. 球技が苦手。</li> <li>3. フットボールが得意ではないため、他の受講者が行なっているのを観るのは楽しそう。</li> <li>4. 体験して楽しかったけど、いろんなことを研ぎ澄ましていなくちゃいけない。</li> <li>5. ルールがよくわからない。</li> </ol>

表 12 「そう思わない」の自由記述式の回答

<p>男性</p> <p>1. ルールもいろいろ種類があり混乱してしまうし、やっていて正直あまり面白くないと思った。</p>
<p>女性</p> <p>1. スポーツがあまり得意ではない。</p> <p>2. ラグビールール、バスケルール、サッカールールといろいろなルールがあり楽しそうだが、見ているだけで十分。</p>

#### 4. 考察

本稿の目的は「今後の授業内容の改善」に役立てることであるので、以下の2点について考察した。

##### 4.1 「対面授業のフットボール」について「健康づくりに良い」と思いますか。

履修者 81 名中アンケート調査に協力をした 73 名のほとんどが「非常にそう思う」「そう思う」という回答であった。これより、「健康体力づくり」で「ゲーリックフットボールの派生的ボールゲーム」を行うことに意義があると考えられる。

##### 4.2 「対面授業のフットボール」について「やってみたい」と思いますか。

好意的な評価は、男性女性とも①体を動かせるので健康になる、②頭を使ったりコミュニケーションが取れる、男性は③ボールを蹴ることが出来る、女性は④性別に関係なく楽しめる、⑤いろいろなルールで楽しむことが出来たとの意見であった。これは、ゲームを行う際にプレイヤーの交代は自由として、性別によってハンディキャップをつけたことが影響したと考える。

否定的な意見は、運動やチームスポーツが苦手であるためにプレーに参加することが出来ないことや、チームに迷惑をかけてしまうという意識が働くためにどうしても消極的になってしまう。それを解消するためにはゲームを行う前にミニ

ゲームによってプレーの判断をすることが出来るようにすることが必要である  
と考える。

さらに、ルールが複雑になってしまい混乱してしまうこともあった。これもミ  
ニゲームの中でルールを理解することも考えたい。

## 5. まとめと今後の課題

スポーツは、そこで行われている国の歴史や文化と密接に関係している。

大学の授業においては、単に体育の実技を楽しむだけでなく、そのスポーツ  
を入り口として様々なことを深く知ることが教養科目の役割であると考え

よって、今後もこのことを念頭に置き授業を展開することを考える。

## 謝辞

本論文を作成するにあたって、高千穂大学 2021 年度秋学期「健康体づくり」火曜 1 限 (廣瀬クラス)、火曜 2 限 (青葉クラス)、火曜 2 限 (廣瀬クラス) の受講生の皆様がアンケート調査に協力して下さったおかげで本稿を完成させることができました。貴重なご意見をいただきましたことに深く感謝しております。さらに、対面授業に参加して下さった受講生が映像の使用を許可して下さったおかげでわかりやすいアンケート調査になりました。重ねてお礼申し上げます。

## 文献

- 1) 廣瀬文彦・青葉貴明・椿原徹也・浅井泰詞・新井健之・齊藤武利 (2022) 大学体育授業におけるゲーリックフットボールの実践研究①—2021 年度秋学期「健康体力づくり」一. 高千穂論叢, 第 56 巻 4 号: pp33 - 56
- 2) 榎本雅之 (2011) アイルランドにおけるフットボールの歴史に関する研究②. 星稜論苑, 39: p73
- 3) Tony Collins (2015) *The Oval World: A Global History of Rugby*. Bloomsburg (トニー・コリンズ 北原美和子 (訳) (2019) ラグビーの世界史 楕円球をめぐる二百年. 株式会社 白水社: p074
- 4) 鈴木秀人 (2012) 派生的ボールゲームとしての「ラグラグビー」に関する一考察—ラグビーフットボールとの相違点からの検討—. 体育科教育学研究, 28(2): pp1-14
- 5) NHK sports (2019) アイルランドのラグビー 対立超える“ONE TEAM” 前編 2022 年 3 月 25 日 (金) 4:12 URL: <https://www3.nhk.or.jp/sports/story/3665/>
- 6) Scrum Unison OFFICIAL WEBSITE (2019) History. 2022 年 3 月 25 日 (金) 14:50 URL: <https://www.scrmunison.com/>
- 7) 下道郁子 (2020) 教養教育におけるスポーツと音楽: イギリスのパブリック・スクールと旧制高等学校の考察—. 東京音楽大学研究紀要, 43: pp63-87
- 8) 高千穂大学シラバス 2021 年度版. 2021 年 11 月 24 日 (日) 17:45 URL:[https://www.takachiho.jp/library/PDF/kyomu/gakubu\\_syllabus.pdf](https://www.takachiho.jp/library/PDF/kyomu/gakubu_syllabus.pdf): p34
- 8) 樋口耕一 (2015) 震災後の高校生を脱原発へと向かわせるもの—自由回答データの計量テキスト分析から—. 友枝敏雄 編 リスク社会を生きる若者たち. 大阪大学出版会: p188
- 9) 樋口耕一 (2020) 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—第 2 版. ナカニシヤ出版: p1
- 10) 町田佳世子 (2019) 質的研究におけるテキストマイニング活用の利点と留意点—活用研究の検討と頻出単語の特徴をもとに—. 札幌市立大学研究論文集, 13(1): pp47-53
- 11) 原沢伊都夫 (2012) 日本人のための日本語文法入門. 株式会社 講談社: p40
- 12) 渡辺由貴 (2021) 「思う」と「考える」の意味はどういうふうに違うのですか. 日本語の大疑問 国立国語研究所編. 株式会社 幻冬舎: p151
- 13) 樋口耕一 (2020) KH Coder を用いた計量テキスト分析実践セミナー ステップアップ編. 株式会社 SCREEN アドバンスシステムソリューションズ: p21-22